

「地震・津波災害へ備えるために ～応用力学からのアプローチ，解析の現状と精度～」

開催日：2014年10月2日13：20～17：00（予定）

開催場所：名城大学サテライト 多目的室

〒450-0002 名古屋市名東区名駅3-26-8 KDX名古屋駅前ビル13階

<http://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/msat.html>

主催：土木学会応用力学委員会

共催：名古屋工業大学高度防災工学センター，名城大学自然災害リスク軽減研究センター

参加費：無料，事前申し込み制（詳細は応用力学委員会HPにて）

※本フォーラムは，土木学会 CPD(継続教育)プログラムとして認定されています（認定番号：JSCE14-0322，単位数：3.7単位）



本フォーラムは，土木学会 CPD(継続教育)プログラムとして認定されています。

趣旨：中部地方では，予測されている南海トラフ地震災害に向けて様々な対策が実施されつつあります．対策を検討する際には地震被害の想定がポイントとなりますが，現象の予測や被害想定に加え，これまで講じられてきた様々な対策の効果を知る上でも，応用力学分野の研究が重要な役割を担っていることは，間違いありません．しかし，自然災害を対象とした際に生じる解析結果の不確実性について，十分理解されないまま，被害想定結果が利用されていることが多いように思われます．そこで，現象を予測するために行われている解析技術がどのようなものなのかを，その精度も含めて，利用者に理解してもらう必要があります．一方で，現場に活用できる技術を開発・向上させるためには，解析する側も現状の解析がどのような状況にあるのかについて，情報を共有しておく必要があります．こうしたことを議論する場として，今回のフォーラムを企画するにいたしました．

フォーラムでは，まず，具体的な解析方法から，想定に使われる情報により解析結果がどのように変化するか，最先端の解析技術はどのようなものか，精度向上のための工夫や未だに残る課題など，予測技術の現状について，第一線で活躍されている研究者からわかりやすくお話をいただきます．同時に，解析結果をできるだけわかりやすく伝えるための可視化，可聴化技術に関しても，ご講演いただきます．

こうしたご講演とそれに対する質疑を通じて，解析技術の現状と課題について講演者を含めご参加いただく皆様と議論できればと考えており，若手研究者・技術者の勉強の場としてもご活用いただきたいと考えております．様々な方にご参加いただき，それぞれの視点から応用力学分野がいかに災害対策へ貢献していくべきかについてご議論いただく場となることを期待しております．

プログラム：

※敬称略

13：20	開催挨拶		
13：30	～ 14：30	京コンピュータを用いた地震の大規模シミュレーション	
		東京大学地震研究所 准教授	市村 強
14：35	～ 15：35	津波解析技術の現状について	
		名城大学	特任教授 川崎 浩司
		(ハイドロソフト技術研究所・研究開発センター長)	
15：40	～ 16：40	防災シミュレーションにおけるバーチャルリアリティ技術を用いた可視化	
		中央大学	教授 檜山 和男
16：40	～ 17：00	全体討議	
17：00		閉会	

事前申し込み先 URL：http://confreg.ate-mahoroba.jp/confreg?conf_idstr=qz6czbsSwHLLfmBP7T3fPw8vV724

問い合わせ先：応用力学委員会中部地区幹事 名城大学理工学部 溝口敦子 orikichubu@gmail.com